

俺は独身で一人暮らしをしているごく普通の男だ。



仕事終わりにムラムラしていた俺は
SNSで今夜泊めて欲しいという家出娘と待ち合わせをしたのだが…

はあ…まさかお前が
その相手だったとはな

私だってびっくりだし…

期待に股間を膨らませていざ会ったら、その相手が実の妹の愛美だった。
最初は偶然会ったものだと思って勘違いしてしまってたくらいだ。



そして事実を知った後、俺たちは軽く言い争いになった。
だが周りに人も居たので、とりあえず俺の家に連れて行くことにし、今に至る。

というかお前　なんで家出なんかしたんだよ

ちよつとお父さんと喧嘩しちゃって…
でも今日はホテルに泊まるお金もなかったし　つい勢いで…



はあ…勢いでって…

まあ親父も荒っぽいところがあるし
お前もムキになる事は良くあるから
なんとなく想像はつくけど…

友達の家に泊めてくれとは頼みにくいだろうけど
別に俺なら頼ってくれても良かっただろ？

俺はもう社会人で一人暮らししてるんだし



これは自分の問題だったから
自分でなんとかしなくちゃって思ってたし…

それにお兄ちゃんに彼女が居て
もし同棲とかしてて邪魔したら嫌だと思ったし…

お前っていつも変なところで気を遣うよな…



俺に彼女なんてできるわけないだろ？

仕事終わって帰って寝て週末休んで
また仕事行くの繰り返しで出会ってる暇もないって

！だから週末はこうして
家出してる娘と会ってるわけ？



いや今回が初めてだって 本気で…

その割には やり取りが慣れてた感じだけど？

う……いや 本当に家出した
娘を泊めたことはいって



：まあ お金渡してホテルで
そういう事をしたことはあったけど…

はあ…お兄ちゃんが
そんな人だったなんて…

元々エッチな事好きそうだったって感じは
してたけど やっぱりちよっとショック…



お：俺だってお前がこんな風に
知らない男の家に泊まる女だっ
て知ってショックだっ

う…それは…

：なあ こういう風に男の部屋に
泊まるのって今回が初めてなの
か？
もしかして今までにもしてたの
か？



これが初めてだよ…

じゃあ 家出は今回が初めてなのか？

…何度か

やっぱり他の男の家に…



ち 違 っ て ……
その ホテル に 泊 ま る お 金 は あ っ た し ……

家のケチなお小遣い程度じゃホテルに何度も泊まれないだろ
お前バイトやってたのか？

そ…それは



…援交的なこととして稼いでたのか？

…う…うん

はあ…そうなのか…

妹くらいの年齢の女の子にお金を渡してエッチな事をしてもらうのは好きだが
実際に実の妹がそれをやっている事を知ると、自分が思っていた以上にショックだった。



どんなことやってたんだ？
手でしたり フェラしたりとかしてたのか？

なんでそんなこと聞くのよ？

いや 気になるだろ？
大事な妹がそういうことしてると思ったらさ…



大事って…全然連絡とか
してこなかった癖に…

大学時代に一人暮らししてた時は
よく連絡くれてたのに…

いや…それは仕事が忙しくて
そういう暇がなくて…

それでも月1くらいで
近況は聞いてただろ？



それにやり取りしない間も
ずっと心配に思ってたよ

昔からお前と親父たちはしよっちゅう
喧嘩してたし ちゃんとやってるか不安だったしな

…ふーん まあ 別にいいけどね…



それで話は戻るけど してたのか？

まあね お金貰うんだし…

そっか…



本当、なんで俺こんなに心が苦しいんだろう？
別に妹なんだし、エッチな事してたって俺には関係がないはずなのに

妹の事を大事に思っている気持ちは変わらないのだから、
こういう状況で変に意識してしまっているからだろうか。

それともそんな話を聞いてしまったからだろうか。
今は妹の事を妙に性的な目で見てしまう。



…なに？ジロジロ見てどうしたのよ？

いや…こうして見ると
本当にいい身体してるなって思っ



エ…エッチ！
妹の事をそんな目で見てるわけ？

いやごめん 最近忙しくて溜まってたのもあるし
今日はそういう事をするつもりでいたから 余計にというか…



ふうん…残念だったわね
相手が私じゃなければ
今頃エッチな事出来てたでしょうに…

いや…俺としてはむしろお前の方が…



えっ
ちよつと何言ってるのよ？

…なあ ちよつとだけでいいから
そういう事してみないか？

そ
そういう事って…
兄妹同士でそんなこと……



お前も今日はその覚悟で男と会ったんだろ？

それはそうだけど…



この通りだ！さっきからお前の事
なんだかずっと性的な目で見てしまってた…

えっ…？

もちろん今日は家に泊めてあげるし
本当 少しだけでいいから 頼む この通りだ！





……はあ分かったわよ
ちよつとだけだからね？

そして妹の前でパンツを脱ぐと
興奮であっという間にペニスが勃起した。

つまり、今の俺は完全に妹に性欲を抱いているという事だ。



これがお兄ちゃんの勃起したオチンチン！
結構大きい！



えっ…わ 分かったわよ…

見られたままだとなんかじれったいしさ…
これ 手でしごいてくれないか？

まるで腫物に触れるかのように
愛美は俺のペニスをそっと握る。

すぐピクピクしてる…
まあピクピクしてるのは他のオチンチンも同じだったけど…



そしてしばらくした後、ゆつくりと手を動かし始める。

あ
く
っ
…

へ…変な声出さないでよ

いや…無理だって…気持ちいいし…



そうなんだ
気持ちいいんだ！

そう、これはあくまで男の人のオチンチンよ
別にそれ以上考える事なんてないんだから！

そして手の動きはだんだんと速くなっていき
亀頭やカリの部分も触り始める。



凄くヌルヌルしてきてる…
お兄ちゃん本当に感じてるんだ 妹の手で…

ああ…気持ちいい…愛美 上手だな…
やっぱりチンコこうして手コキするの 経験してるんだな

初めてでは決してこんな風にできないだろう。
そう思うと少し辛いところはあるが、それでも
目の前の気持ち良さをかみしめていく。



どんどん硬くなってる…ここまで硬いの初めてかも！

お兄ちゃん 気持ちいいの？

思わずそんな言葉が口からでてしまった。



ああ…めちゃくちや気持ちいいぞ…

そうなんだ…

うう…私までなんか 変な気持ちになってきたじゃない…



なあ…このままフェラしてくれないか？

えっ…フェラ？

ああ…頼む 俺の
オチンチン啜えて欲しい

…分かったわよ



そして愛美は俺のチンコをフェラし始める。

う…

妹の口内の温かさを感じ、舐められているのだと実感した途端に声が漏れだしてしまう。



んっ…んっ…

そして愛美はゆっくりと味を
確かめるように口を動かしていく。

お兄ちゃんのおチンチン啜えちゃってる…
私凄く興奮してきてる…



愛美は俺の方を見ずに無言でひたすらフェラチオを続ける。
その顔は赤く、恥ずかしがっているようだ。

やっぱ兄貴のをフェラとか 恥ずかしいよな…
まあ俺も恥ずかしいし…

でも本気で愛美のフェラ気持ちいいな…



舌を這わせて裏筋を刺激したり、奥まで咥えてみたりと
様々な刺激を加えてくる。
これも経験を積んでいないとできないだろう。

今までどれくらいフェラしたんだろう？
俺のチンコはその中で一番おいしいうって思ってるかな？

そんな兄貴が妹に抱くものとは思えない
独占欲にも似た感情が沸き上がってしまう。



んっ…んっ…ん…

うう…ついに濡れてきちゃった…
フェラチオはした事あるけど単純な作業にしか思えなかったし
こんな風に濡れる事なんて一回もなかったのに…



そしてだんだんと愛美のフェラは激しくなっていく。

じゅんっ
るるっ
んっ
んっ
んっ

う…すごい 愛美 ヤバイ…
それ…気持ち良すぎる…

そんなことされたらもうっ…

この気持ち良すぎる刺激に加えて先ほどの手コキや、溜まっていた事もある。ものの数分であつたという間に射精感がこみあげてくる。

くっ…もうダメだ だすぞ 愛美っ！



んんっ!

びゅるっ!びゅるっ!
俺は妹の口内に勢いよく精液を発射する。

数日溜まっていたこともあって大量に出たこともあり
口から精液が零れ落ちてくる。



んっ
んぐっ
んぐ……

すごい量……こんなに
出されたの初めて……

驚いたことに妹は俺の
精液をそのまま飲み干し
ている。そのことに興奮
した俺は、更に精液の量
が増えた気がした。



そして精液が全部出きった後、愛美は口を離す。

…はあ 本当になんか溜まってるんだね…

あまりに凄くて飲んじやったじゃない…

悪い…気持ち良すぎて…でも飲んでるのを見てまた興奮してきた…





いつもこんな風に
飲んでるのか？

飲むわけじゃないじゃない
こんな不味いもの…

飲んでるのを見て興奮する
なんて変態だね お兄ちゃんって…

じゃあ何で飲んだんだ？
別に口から離せばよかったじゃないか

え？…別に あまりにびっくりして
飲んじやっただけで特に理由はないから…

知らないおじさんの精液なら嫌だけど
お兄ちゃんのならって思って飲んじやっただなんて言えない！



なあ 今度は俺の方が
愛美を気持ち良くしたい

えっ? きやつ!



俺は愛美をそのままベッドに押し倒し
制服をまくりあげて胸を揉む。

ちょ ちよつと…やめてっ
んっ…んっ♡

そんなこと言いながら
エッチな声でてるぞ？

ここれ…はっ…んっ あっあ…
やめ…て…ば…



嫌がりながら身をよじる愛美だが俺は鼻息を荒くしながら揉みしだいていく。

愛美…すごいエッチだ…興奮する…

んっ
んっ
んっ…

お兄ちゃん 獣みたい…そんなに私に欲情してるの？



そして徐々に愛美は抵抗するのをやめ
顔を赤らめながらエッチな声を漏らし始める。

はあ…はあ…綺麗なピンク色の
乳首だ…れろっ…れろっ

んあっ♡そこはっ…
あんっ…んっ…んっ…

俺は吸い寄せられるように彼女の突起した乳首を舐めまわす。



んっ あっ…あっあ…♡

今までにも援交で何人かと関係をもってきたが
愛美以上に綺麗で大きなおっぱいの女の子を見たことがない。



そしてこのルックスに加えて普段の強気な性格とは真逆に可愛く感じてくれるこの反応に、俺は妹であることをつい忘れそうになるくらい目の前の彼女に没頭していく。

ああ…愛美…れろ じゆる れろ…

ああ もう我慢できない…!!

んあ…あっあ♡
だだめっ あっ…んっ♡



愛美：俺 もっとお前の事を知りたい！

えっ…あっ…

そして俺はそのまま下へと移動し
パンツを脱がせて秘部を見る。



やめて さすがにそれはっ…!!

じゃあ なんでこんなに濡れてるんだ？

既に触る前からワレメから
愛液が垂れるほどに濡れていた。

そそれは…
でもダメだってこれ以上は…



俺はその言葉を無視して、ワレメに指を這わせる。

あっ♡んっ
だめっ…んっ…



ダメと言いながらも、身をよじらせる程度で
本気で逃げる様子はない。

興奮しているのは愛美も同じってことか！

そう考えた俺の指はもう止まらなかった。
そのまま何度もワレメを擦ってクチュクチュとさせていく。



あんっ あっ…んっ あっ
やっ…あっ ああ♡

どんどん濡れてきてるぞ…
これが気持ちいいのか？

き 気持ち良くなんて…
ダメッ あっ ああ♡

可愛すぎる…こんなのもうやめられない！



俺はそのまましゃぶりつくように
愛美のアソコを舌で舐め始める。

いやっ♡だめっ
あっあっ♡
あっああっ

じゅるっ れろっ じゅる
ああ 愛美のオマンコ美味しい…





だ
だめっ そんな…

あっ ああっ あっあ♡
いいやあ あっあっあ♡

さっきは俺のチンコを気持ち良くしてくれたからな…
じゅるっ れろっ 俺もお返ししないと…

そ
そんなのいらないうっ…♡
あっ あっあ♡
だダメッ あんっ あっ♡

一体どこからでてるんだろうと思うくらいに
どんとオマンコが濡れてくる。

んあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ

こんなこと兄妹でするなんておかしいのに…
気持ちよくなってきた…いっぱい濡れてきちゃうっ…



あつ ああつ あつあつ
んんっ あつあつ ♡

だんだんとオマシコが震えてきてるな
これはイクかもしれないな！

そうして何度も舐め続けていると…





んあ ああっ♡

ビクビクと身体を震わせ、愛液を吐出する。
見るからにイッてしまったと分かった。



はあ…はあ…

愛美…イツたんだな…

俺の舌でイクなんて可愛すぎる…
こんなのもう我慢できないだろ…！



俺は既に痛いくらいに勃起していたチンコを彼女のワレメにあてがう。

えっ ちょっと...
何してんのよ!!

ごめん愛美 俺もう我慢できない...!!

我慢できないって…
んっ…んっ…本気でする気なの？

本気だよ そんなエッチな姿を
見せられたらもう無理だ
俺…今 愛美が凄く欲しい…

そんな…本気って……
んっ…ん 私たち兄妹なんだよ？



分かってる…でも俺 愛美の事を今
完全に異性として見てしまってるんだ

えっ……

愛美は可愛いし 妹って事を抜きにすると
これほどタイプの女の子は居ないくらい
理想なんだよ…

だからこの通り お願いだ！





……わかったいいよ

ほ 本当か？

うん……お兄ちゃんが
そこまで言うなら……

ありがとう



許可を貰った俺は
すぐさまオチンチンを奥へと挿れていく。

あっ
んああっ！

うあ…き
気持ちいいっ………！！

奥まで一気に挿れた途端
信じられないくらい
の気持ち良さが襲ってくる。

痛いっ……

そして俺が気持ち良さをかみしめると
それとは真逆に愛美は涙を浮かべて痛がっていた。



もしかしてと思った俺は結合部を見ると
案の定血がでていた。

えっ…愛美…お前……
処女だったのか？

だってお前 援交してるって…





ごめん愛美…
俺 大事なお前の処女を……

大体アソコなんて人に見せたことないし
フェラとかまでしかしたことないし…

っ…そんなことまで
するはずないでしょ？



愛美……!!

だから気にしないで
動いて……

別にこんなの 大事とか
思っていないから……

俺は愛美の言葉に甘えてピストンを開始する。

大切な妹の処女を奪ったことで罪悪感に苛まれたが
今の理性を失った状態ではもう止める事なんてできなかった。

あんっ あっ あっあ♡



愛美は苦痛で顔を歪めながらも上ずった声を出している。
痛いながらも、僅かに気持ち良さが垣間見えているような
そんな反応だ。

気持ち良すぎる…
こんな気持ちいいオマシヨ
味わったことがない…!!

本当はもう少し速度を緩めるべきだと思ったが
ペースを緩めることなんてできなかった。





くっ そろそろ出そう...!!
愛美 イキそう...イクぞっ!

んっ ああっ あっ あっあ...



びゅるっ！びゅるっ！びゅるるっ！
中出しはまずいので直前でチンコを
引き抜き、愛美の身体に発射する。

ああああっ！



はあ…はあ…

射精後、ぐったりしている愛美を見て
不覚にも興奮してしまう。
そんな自分に罪悪感を覚えてしまう。

愛美…ごめん俺 愛美の処女を…



俺…ちゃんとこの責任をとるから

別になんとも思っていないし
私の方から良いよって言ったんだから

だから謝らないですよ



…待って

私もさっきはつい勢いで
オツケーしちゃったけど…

やっぱり兄妹同士で
こんなことはダメだよ…

えっ？



愛美…

赤ちゃんだつてきつと…

だつてこのまま一緒になつたつて
結婚もできないし…



それで今まで通りの
兄妹の関係で居ようよ

だから今のが
最初で最後ってことで...
これつきりにしよ?

そうして愛美は、身体を綺麗にしたいということ
でシャワーに一人で入ってしまった。

愛美：悲しそうな顔してたな！

愛美のあの様子を見る限り、今まで通りにとっても
果たしてそんなことができるのか疑問に思ってしまった。

たった1度だけとはいえ、兄妹としての
一線を越えてしまった事実は消えない。
ましてや初体験の相手であればなおさらだ。

その事で愛美の気持ちを一生傷つけてしまうのは
凄く嫌だった。

このまま愛美と疎遠になってしまったら……

だめだ やっぱりそんなの耐えられない……!!



愛美…!!

気が付いたら俺は、自然と風呂場に足を向けていた。

きゃっ…! な何?



愛美：いきなりごめん
俺の気持ちをちゃんと聞いて欲しくて…

え？

俺：愛美とエッチをしてから…
本当にお前を一人の女の子として
魅力的だと思ってしまったんだ
…異性として愛おしいって思ってしまったんだ



A blue-haired anime girl is shown from the waist up, standing under a showerhead. She has long, dark blue hair and is looking down with a surprised expression. Her body is wet, with water droplets visible on her skin. She is holding her right breast with her right hand. A speech bubble is positioned to her right, containing Japanese text. In the top right corner, there is a small, empty oval shape with a dotted line inside.

愛美 俺と付き合って欲しい

だから…私たちは兄弟で…

愛美は本当に俺の事
兄貴としてしか見られないのか？

これは単に俺が思い違えている
だけなのかもしれないけど…

俺とエッチな事をしてる愛美を見て
愛美も俺の事を異性として
見てくれてるんじゃないかって思ってしまったんだ



それは……

もう一度言う

大好きだ 愛美
俺と真剣に付き合ってくれ

これから一緒に暮らそう



……お兄ちゃんズルいよ

え？

お兄ちゃんと違って私はお兄ちゃんのことを
ずっと前から想ってたんだよ？





ただ今までお兄ちゃんの事を想う度に
兄妹だからダメだって自分にずっと言い聞かせて
我慢してきたのに…

お兄ちゃんはそうやって簡単に
私に告白してきてズルいよ…

そうだったんだな
お前がそんなにずっと悩んでたなんて…
気づいてあげられなくて本当にごめん…

でも俺はいつも
理屈よりも感情で動くタイプだから…

分かってるよ お兄ちゃんだもんね…
そういう所もひっくるめて好きになったんだもん…



愛美：大好きだ！

俺は感極まり、後ろから襲う形で愛美にキスをする。

んっ
んっ
んっ…♡



愛美は突然の俺のキスにビックリしながらも、拒否することなく受け入れてくれる。

そして気がつけば俺たちは自然と舌を絡み合い、互いを求め始めていた。



愛美…んっ んっ…ん

そうしてキスをしながら自然と愛美のおっぱいを揉み始める。
キスの吐息が更に色っぽくなっていくのを感じる。

お兄ちゃん…んっ んっ…んっ…♡



シャワーのお湯の温かさも相まって、身体がどんどん熱くなっていく。
愛美のおっぱいや口内も同じように熱くなっている。

んっ
んっ
あっ
あ…んっ
ん…♡



んっ はあ…はあ…
お兄ちゃんのオチンチン

硬くなってるね…♡

ああ…愛美とキスしたからな…

辛いでしょ？…いいよ…」のまましよ？



愛美…!!

俺は再び愛美のオマンコに
すっかり硬くなったペニスを挿入する。

んああっ♡



オマンコは先ほどよりもギュッと締め付けてきて
完全に俺のチンコを受け入れているようだ。

その事が嬉しくなり、俺はパンパンと
最初から軽やかに腰を動かしていく。

あんっ あっ♡あっあ あんっあ♡



既に膾内は濡れていた。
さつきのキスで濡れたのだらう。
期待していたのは愛美も同じだったようだ。

あんっ
あんっ
あつ
あつあ
あんっあ…

愛美
好きだ
好きだっ……！！

あっ あっあ 私も…あっあっ
お兄ちゃんのこと 好き♡

ずっとずっと好き♡

そんなことを言い合う度にどんどん愛美の膣圧が
強くなってきた、俺のチンコを放さない。
まるでこのまま中出して意思表示しているように。



愛美：本当に可愛い！
なんで俺はいままでこんなに可愛い女の子が
身近に居ることに気がつかなかったんだ

もっと早く気づいていれば 愛美が家出して
援交とかそんなことをすることはなかったのに！



後悔の念に駆られつつも、目の前の女の子を
完全に愛おしいと思いつつ、その想いをぶつけるかのように
何度も何度も後ろから突く。



そしてあつという間に
射精が我慢できない感覚にまで到達する。

あんっ
あっあ♥あぁっ
あんっあ♥

はあ はあ…もう出そうっ…
このままだにだしていいか？
責任とるからっ…

あんっ あっあ…
うん いいよっ…
♡

今日はお兄ちゃんの精子を中で
感じたいからあ♡あんっあっあ♡

くっ 愛美っ…!!
大好きだっ う…でるっ!!





あああああ♡♡♡

びゅるっ!びゅるっ!
俺は愛美の膣内に大量の精液を発射する。

回数を重ねるごとに量が減っていくものだが
興奮しているのかさっきよりも出ている。

同時に愛美もビクビクとオマンコを震わせてイッている。



一緒にイけた事にこの上ない幸福感を味わいながら、射精の余韻を噛みしめる。

はあ…はあ…愛美…
俺 愛美の事もっと欲しい…

射精の直後だというのに
俺のペニスはまだ彼女の中で、射精したいと再度膨張していた。

うん…私も…♡
今度はまたベッドでしょ？



そして風呂から出て、すぐに3回戦をし始める。

んっ…んっ…♡

挿入する前に、愛美の提案からパイズリをしてもらう。



ああ…すごく気持ちいいっ…

チンコを包み込むほどに大きいのに、硬すぎず柔らかすぎずの程よい弾力のおっぱいに包まれてしごかれるこの気持ち良さは、もはやどう表現していいか分からなかった。



くっ…

なあ こんなことも
援交してたのか？

するわけないじゃない
そもそも男の人に裸を見せたのだから
お兄ちゃんが初めてだよ？



そうなのか？

うん…お兄ちゃんの事は諦めなくちゃって思ってたけど
やっぱりそれでも心の底からは諦めきれなくて…

なんとなくそういうことまで
したくなかったから…



そっか…嬉しいな

ごめんな 俺勘違いして…
愛美を凄く独り占めしたくなってしまって…

お兄ちゃん 焼きもち妬いたんだ？



ああ…妬いたそれで 愛美と一つになって
ハッキリ異性として好きだって気づいたんだ

そっか 援交したことを少し後悔してたけど
無駄じゃなかったのかな

これからは家出する必要ないんだから
もうそんな事しないでくれよ？



ふふ
どうしようっかな

お
おい……

嘘だよ
絶対これからはお兄ちゃんの前でしか
絶対にエッチな事しないから



全くからかうなんて
やっぱり愛美は愛美だな

嫌いになった？

なるわけないじゃないか
むしろもつと好きになった



そう言う、愛美は恥ずかしそうにしながら照れた。
本当に可愛すぎて、誰にも渡したくないと思った。

これから愛美を独占したい気持ちと
パイズリの気持ち良さと興奮でペニスはもういつでも射精できると
ビクビクと脈を打ちながら主張する。



愛美っ…そろそろ…

うん…いいよ挿れて？



そして今度は側位の格好で挿れる。

あんっ ああっ あっあっ♡

挿入を開始すると、結合部にはやくも愛液が絡みついていた。
挿れる前から俺のチンコを待ちわびていたようだ。



気持ち良さによる快樂と共に、どんどん彼女を愛おしいと思う気持ちが大きくなっていく。

その思いのたけをぶつけるようにパンパンパンと激しくしていく

あんっ あんっ♡
ああっ あんっ あっあ♡





あんっ あっあ♡嬉しいっ…

あんっ 私もあんっ あっ
お兄ちゃんが大好きっ♡
あっあっあ♡

大好きだ 愛美っ…!!
もう放したくない…!!

感極まった俺は、射精を堪える事もなく更に激しくしていく。

あつ ああつ あんっあつ
んあつ あんっあつあ ♡
♡



そして射精の我慢の限界が臨界点を突破し
もう射精が抑えられなくらいまで来ていた。

この精液の行先は、もう俺の中で既に決まっていた。





愛美っ…愛美っ…!!
イクぞっ また中にだすぞっ!

うんっ あっあっあ♥
出してっ おにいちゃんっ♥

私もイクからあっ♥
私の中にいっぱいだしてっ♥



あああああつ♡

チンコを引き抜くと、子宮に入りきらなかった精液が
ドロリと出てきた。

4回も出したというのに
まるで1発目のような量だ。

はあ…はあ…
いっぱい出たね…

出されてる感覚 さっきよりも
ハッキリと分かったもん



ああ…凄く興奮したからな…

愛美のオマシコから俺の精液が垂れてる…
俺 本当に中出したんだな



さっきもお風呂場で中出しをしたが
こんなにハッキリと中出しをした姿を見たのは
今が初めてだったので、中出しをした事の重要さがより際立つ。

…愛美 妊娠したら
ちゃんと責任とるからな

……うん



そして行為後、一緒にお風呂に入った。

一緒にお風呂に入るなんて
何年振りだろ？

多分 8年ぶりくらいかな？
あの時はまだここまで色々大きくなかったよな…





ああ：確か愛美の方はまだ俺と一緒に風呂に入りたいてって言って俺の方はもうそこそこの年齢だったから俺の方から断る形で入らなくなったんだっけ…

うん私も色々と成長したよ？
あの頃はまだ私も無邪気だったし…



でも私はあれからお兄ちゃんとかうしてお風呂に入りたい気持ちは変わらなかったよ？

お兄ちゃん 前とか隠すようになつてたもんね

嬉しいな
俺 愛美がそんなことを思つてくれたなんて全然思つてなかった



…ごめんな 知らずに辛い思いをさせて

それは自分の気持ちを
頑張つて隠してたからね…

そんなことないよ
だって兄妹で結ばれるなんて
普通はありえない事なんだし

最近の愛美はつんけんして生意気だなと思う一面もあったが
こうして向き合おうと、昔一緒にお風呂に入っていた時から
全然変わっていないなかったんだなと素直に思えた。

愛美…

それに今こうしてお兄ちゃんと
一緒になれて私は凄く幸せだから





…俺 中途半端な気持ちで
中に出したつもりはないからな

法律上結婚はできないけど もし妊娠して
赤ちゃんができたなら一緒に育てよう

……うん そうなったらいいね



なんだよ 信用してないのか？

ううん そうじゃなくて…
元気な赤ちゃんが産まれるか心配で…

大丈夫だ
これだけ愛し合っているんだから
産まれてくる赤ちゃんはきっと
元気に決まってるよ

…そうだね

頼りないは余計だけど
愛美の安心材料になれるのは素直に嬉しいな

…お兄ちゃんって不思議だよ

普段頼りないはずなのに
お兄ちゃんに言われるとなぜか
妙に安心しちゃうもん…



まだ赤ちゃんができた時に産む決心は完全にはないようだが
それでも前向きな気持ちにはなったようだ。

：愛美 改めて聞くぞ
俺と一緒に暮らしてくれるか？

うん もちろん
今日からよろしくね お兄ちゃん ♡



そして、半年後……

あんっ…あっ…あっ♡

愛美はあの日の中出しで妊娠した。

妊娠が発覚した時、愛美はやはり産むかどうかを
凄く悩んでいたが、俺の真剣な気持ちを再度伝え
そこで産む決心が完全に固まったようだ。



そして安定期になったので
今日は久しぶりのセックスをしている。

あんっ ああっ あっあ♡

同棲を始めてから約半年。
愛美とはたまに喧嘩もするけど、すぐに仲直りをし
喧嘩をした分だけお互いに更に仲を深めていった。



その度に、愛美は俺が一生支えてあげなきゃいけないと心に誓っていた。そしてこれから産まれてくる子供の事も。

家族が増えると手狭になるので俺は思い切って家を購入した。

現在は建築中で、産まれた頃には新居に引っ越すことができるだろう。





愛美：大好きだ
お前を一生幸せにするからな

嬉しいっ♡あんっ あっあ♡
私もお兄ちゃんが大好きっ♡

私もお兄ちゃんが幸せに
なるように頑張るからっ♡

ああ二人…いやこれから産まれてくる
子供とみんな幸せになろう



くっ…愛美 そろそろっ…!!

あんっ あっあっあ
うん 出してっ♡

お兄ちゃんの久しぶりの濃厚な精液っ…
いっぱい頂戴っ♡

あああああ♡

結婚ができないなんて事は些細な事だ。
そんな事で俺たちの愛は揺るがないし
一緒に居て支えることはできるのだから。

俺は今後、彼女を絶対に悲しませないと
心に誓ったのだった。

END

そして出産当日……

んんっ
んああっ……！

また痛いのか？



うん…痛い…

でも 赤ちゃんがそろそろ産まれる証拠だもんね
頑張るよ…

愛美は本当に芯が強い子だ。
その事で何でもすぐ一人で抱え込んでしまうところは玉にきずだが…



愛美：俺がずっとついているからな
だから何でも俺に言って欲しい

うん
ありがとう
お兄ちゃん

そうして愛美が微笑みかけた時……

んあああつ！

ぷしゃあ！っと突如としてオマンコから羊水が噴射された。
あまりの突然の出来事に俺はびっくりして言葉を失う。



んああ
あああつ……!!

愛美……
もしかして産まれそうなのか?

うう
うん……き 来たっ……
産まれそう……!!



破水した事で驚いたが、これから産まれるという事実を知り、何とか冷静さを保つ。

んあああつ！あああつ！

だが、愛美の今まで聞いた事もない苦痛の悲鳴を聞き、俺はひどく混乱する。



愛美……！

こんなに辛そうにしているのに俺は何もできないなんて……
くそ……！ 変わるものなら変わってあげたい

あああつ！ あああつ！

そんなことを思いながら、彼女が奮闘している様子を固唾をのんで見守る。

そしていよいよ赤ん坊の頭がでてきた。これから本格的に新しい命が誕生するんだと思うと、心臓のバクバクが収まらなかった。

痛いっ！あああつ！あああつ！

そこで愛美の声が更に一際大きくなった。
無理もない。オマンコの入口よりも明らかに大きな赤ん坊の頭が出ようとしているんだから。



だけどそれでも懸命に産もうとする愛美を見て、涙がこぼれそうになる。

もう少し もう少しだぞ……！
頑張れっ……呼吸を整えて……

そうして、呼吸を整えていると……

ひっ ひっ ふー……ひっ ひっ ふー……





あああああつ♡♡

おぎやあ！おぎやあ！



産まれた……！愛美 元気に泣いているぞ！
俺たちの赤ちゃんが！

はあ……はあ……本当だ……よ 良かった……

苦痛を乗り越えて無事産めた事と、元気な赤ちゃんが産めた事に安堵し心の底から喜んでるようだ。それを見て、俺は目頭が熱くなる。

ふふ…お兄ちゃん 泣き虫だね

そんなこと言いながらも
愛美だって泣いてるじゃないか





うん…私も泣き虫かも…
でも本当に嬉しいから

愛美のそんな可愛い様子を見て、俺は絶対に幸せにするんだと心に再度硬く誓う。

愛美：俺 絶対に愛美を幸せだって
思えるようにしてみせるから：

これから明るい家族生活を
過ごしていこうな

うんっ ずっと一緒だよ？
お兄ちゃん♡

END